

2025年2月25日

報道関係各位

株式会社 構造システム 営業本部
112-0014東京都文京区関口2-3-3
TEL:03-6821-1311 担当:伊原
<https://www.kozo.co.jp/>

在来木造の構造計算ソフト「HOUSE-ST1 Ver.9」を発売 2025年改正建築基準法、およびお客様からのご要望に対応して機能を強化

建築分野パッケージソフトの開発を行う、株式会社構造システム(本社:東京都文京区、社長:千葉貴史)は、在来木造の構造計算ソフトの新バージョン「HOUSE-ST1 Ver.9」を2025年2月25日にリリースいたしました。

HOUSE-ST1は、木造軸組工法の構造計算を行うソフトウェアです。計算した結果は、伏図などと共に構造計算書として出力されます。3階建てのほかに、2階建て以下、最下階RC/S造、2階、2・3階木造の立面混構造に加えて、1・2階RC/S造、3階木造の立面混構造の木造部分の構造計算が行えます。

これまでのHOUSE-ST1の特徴である、直観的な操作でデータ作成、分かり易くスムーズな入力、豊富な自動計算機能、見やすい出力、CADファイルの活用などを踏襲しながら、お客様のご要望を取り入れて進化しました。また、2025年度より実施予定の4号特例縮小、令46条壁量計算の変更に対応してバージョンアップいたしました。

新発売を記念して、2025年6月30日までキャンペーンを実施、定価の10%オフで販売します。

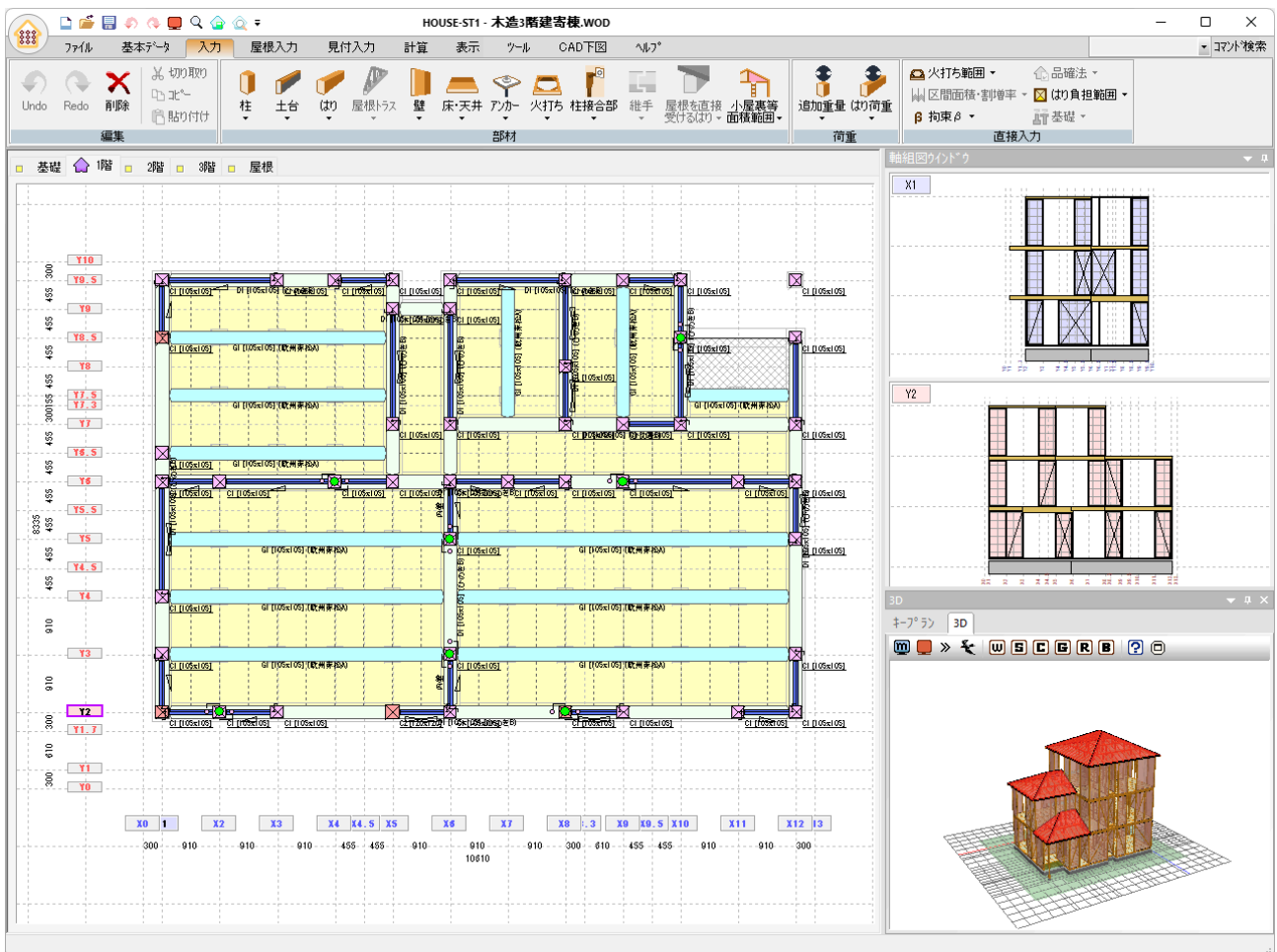
購入種別	定価	キャンペーン価格
HOUSE-ST1 Ver.9 新規購入	484,000円 (税別440,000円)	435,600円 (税別396,000円)
バージョンアップ購入 Ver.8より	99,000円 (税別90,000円)	89,100円 (税別81,000円)
バージョンアップ購入 Ver.6、Ver.7.5より	148,500円 (税別135,000円)	133,650円 (税別121,500円)

この他に、住宅の省エネ計算ソフト等とのセット価格もキャンペーンの対象となります。
詳しくはWebページをご覧ください。

https://www.kozo.co.jp/campaign/campaign202502_house-st1.html

■HOUSE-ST1 Ver.9 主な新機能一覧

<p>2025年改正 建築基準法対応 (令46条壁量 計算等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 準耐力壁等: 存在壁量へ準耐力壁等を算入 ● 壁倍率上限: 壁倍率の上限を、7倍、上限なしから選択可能 ● 筋かいの高さによる壁倍率の低減: 筋かいを入れた軸組の高さが3.2mを超える場合、壁倍率を自動で低減する機能を追加 ● 必要壁量: Ai分布による必要壁量の自動計算に対応 ● 許容応力度計算時の壁量計算: 許容応力度計算を行った場合、壁量計算結果を省略可能 ● 3階建て高さ13m超16m以下の木造建築物を対象に、鉛直方向壁量充足率: 鉛直方向の壁量充足率の確認が可能
<p>入力機能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● キープランウィンドウ: 大規模物件の入力時に確認が容易に ● 屋根面基準線指定: 入力の手間を軽減 ● 断面リストを定義して配置: 編集機能の向上、表入力に対応 ● 軸・スパン長軸平行表示: 大規模物件の入力データの視認性が向上 ● はり延長・カット: 配置した部材の修正機能が向上 ● コマンド検索: 使いたいコマンドが直ぐに見つからないときに便利
<p>計算機能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ベタ基礎接地圧計算範囲直接入力 ● 屋根面ごとの屋根形状係数直接入力 ● 布基礎の底盤幅検計範囲直接指定 ● 小屋裏等面積範囲入力 ● 2点留め筋かい金物
<p>出力機能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 出力時間短縮: マルチスレッド処理により高速化 ● 壁量計算、品確法出力: 壁量計算書として、別途出力する機能を追加



HOUSE-ST1 データ入力画面

■2025年改正建築基準法対応(令46条壁量計算等)

<p>準耐力壁等</p> <p>存在壁量へ準耐力壁等を算入できるようになりました。 「存在壁量に算入しない」「準耐力壁等が必要壁量の1/2を超えるとして算入する」「準耐力壁等が必要壁量の1/2以下として算入する」の指定により、壁量計算、四分割法、偏心率、柱頭・柱脚接合部の各計算に、指定に合わせた算入ができます。</p>	<p>必要壁量</p> <p>Ai分布による必要壁量の算定式に対応しました。許容応力度計算で算出した実態に応じた重量から、必要壁量が計算できます。 壁量等の基準(令和7年施行)に対応した設計支援ツールの「表計算ツール」および「早見表」で決定した「床面積に乗ずる値」での検討を行うことも可能です。</p>
<p>壁倍率上限</p> <p>壁倍率の上限を、7倍、上限なしから選択できるようになりました。 5倍を超える高耐力壁が使用できます。</p>	<p>許容応力度計算時の壁量計算</p> <p>許容応力度計算を行った場合、壁量計算結果を省略できます。 指定により、壁量計算の結果を許容応力度計算に含めることもできます。</p>
<p>筋かいの高さによる壁倍率の低減</p> <p>筋かいを入れた軸組の高さが3.2mを超える場合、壁倍率を自動で低減する機能を追加しました。</p>	<p>鉛直方向壁量充足率</p> <p>3階建て高さ13m超16m以下の木造建築物を対象に、これまで許容応力度等計算において検証を行っていた剛性率規定に代わるものとしての鉛直方向の壁量充足率の確認ができます。</p>

準耐力壁等の考慮(計算条件ダイアログ)

計算条件

計算モード: 許容応力度計算 壁量計算(令46条関係、接合部金物等) 品確法計算

許容応力度計算

構造計算ルート: ルート1 ルート2 適用する 適用しない

令46条第2項: 適用しない 適用する

令46条関係の計算: しない する

JIS A 3301: 考慮しない 考慮する

品確法: 適用しない 適用する

層間変形角 1/ 120

許容応力度計算における壁倍率の上限: 7倍

管柱接合金物の補正: 補正しない

最下階のめり込み許容応力度: 他の許容応力度と同じ

引抜力の上階検定比補正: 補正しない

必要はりせ: 算定する

基礎の断面計算: 算定

積雪短期めり込みの検討: 検定する

めり込み検討用短期軸力: 壁の短期許容せん断耐力から求める(β考慮しない)

吹抜による水平構面負担せん断力の割増: 行う

高さ方向の剛性のバランス(13<高さ≤16(m)): 剛性率により確認する

令46条関係の計算

準耐力壁等の考慮: **必要壁量の1/2以下であるものとして考慮**

壁量の検定(壁量計算)における壁倍率の上限: **必要壁量の1/2以下であるものとして考慮**

壁配置の検定(4分割法、偏心率計算)における壁: **必要壁量の1/2を超えるものとして考慮**

品確法

耐震: 1級 2級 3級

耐風: 1級 2級

耐積雪: 1級 2級

接合部金物の計算: 許容応力度計算

N値計算における壁倍率の上限: 上限なし

出隅柱の指定: 自動計算

出力記号...

OK キャンセル

必要壁量(地震力ダイアログ)

地震力

地震地域係数 Z: 1

地震時標準せん断力係数: 0.2

地震用建物重量

入力方法: 木造部分重量を含まない 木造部分重量を含む 自動計算

2階: 0 kN

1階: 0 kN

層せん断力係数

X方向 Y方向

3階	0	0
2階	0	0
1階	0	0

筋かいの負担水平力割増係数

X方向 Y方向

	1	1
--	---	---

地震力に対する床面積あたりの必要壁量(cm/m2)

令46条用 令46条、性能表示等級1用 性能表示用

(許容応力度計算する場合) (許容応力度計算しない場合)

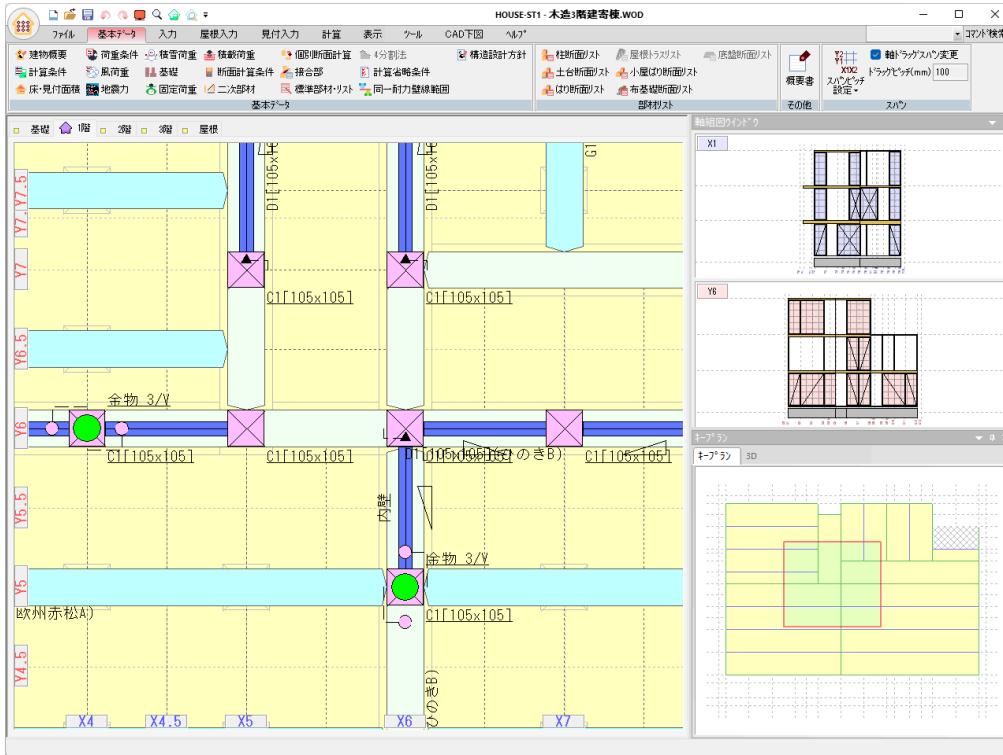
3階	18	2階建て用	平屋建て用	等級2	等級3
2階	34	15	0	0	
1階	46	29	11	0	0

OK キャンセル

■入力機能

キープランウィンドウ

簡易伏図の全体表示により、大規模物件の入力時に作業ウィンドウで表示している位置を容易に把握できます。さらに、キープランウィンドウ上でマウスを操作することで、作業ウィンドウのパンニング、拡大・縮小、範囲指定拡大が可能です。



断面リストを定義して配置

断面を別途リストとして定義できるようになりました。配置している断面の名称、寸法などをまとめて編集できます。リスト入力は表入力で行えます。Excelなどの表計算ソフトウェアで作成されたデータをクリップボード経由で利用することや、アンドゥ・リドゥも行え、データ編集がスムーズに行えます。



■計算機能

べた基礎接地圧計算範囲直接入力

べた基礎接地圧計算範囲が直接入力できるようになりました。

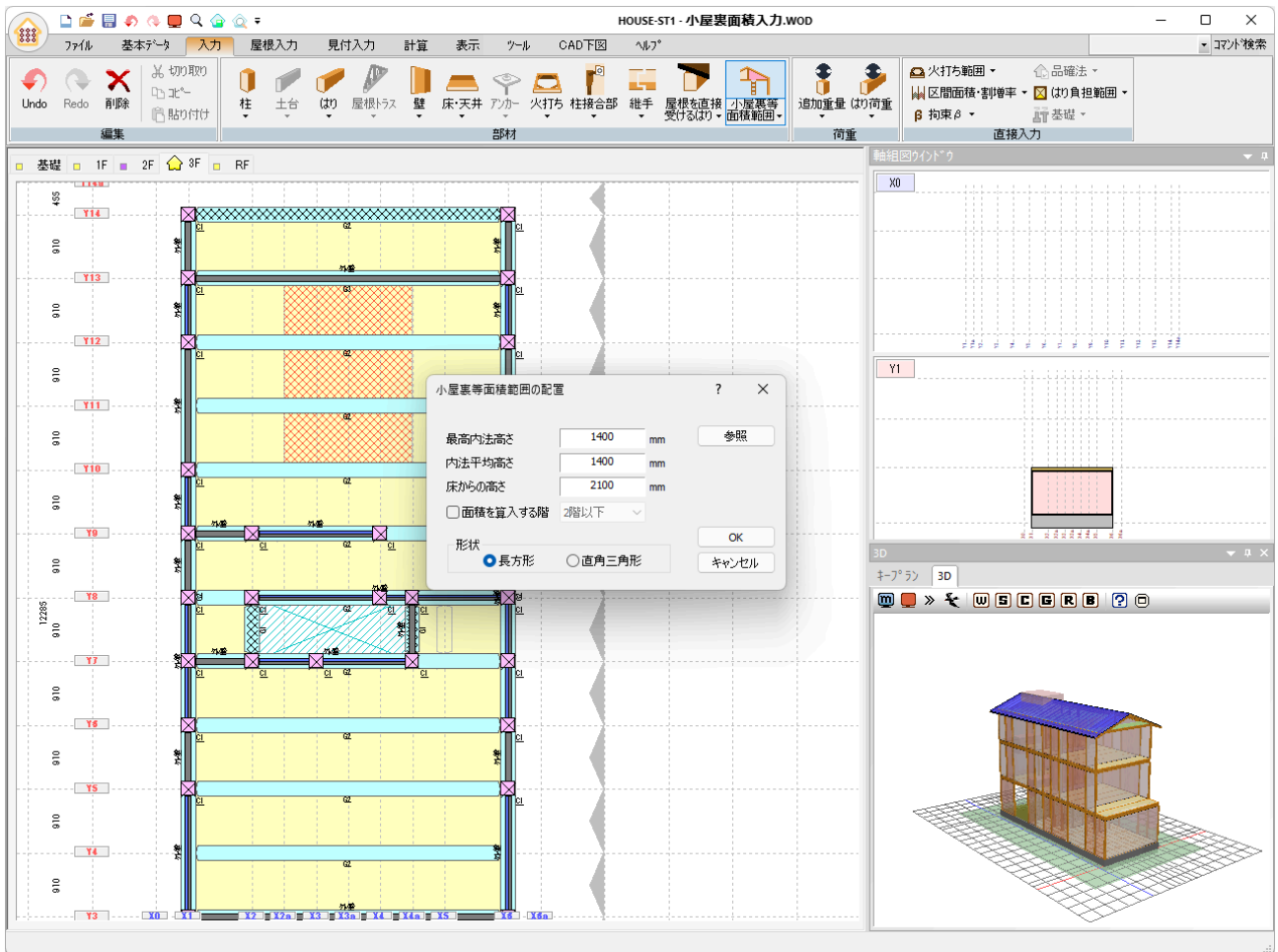
べた基礎の接地圧の検定では、区画面積が小さい場合にNGとなることがありますが、NGとなった隣接区画で十分な余裕がある場合、直接入力により範囲を合計して計算することが可能です。

小屋裏等面積範囲入力

小屋裏等面積範囲を配置できるようになりました。

令46条の必要壁量計算用床面積を割増すための入力は直接入力のみでしたが、配置された範囲から加算する面積を自動計算して加算することが可能です。

配置した小屋裏等面積範囲は、壁量計算への考慮のほか、4分割法では側端部分の小屋裏等面積範囲を自動計算して計算に考慮します。



■出力機能

出力時間短縮

マルチスレッド処理により、出力時間を短縮しました。

出力処理の流れを見直し、並列処理が可能なデータ構築、改ページレイアウトの処理を別処理とし、CPUの各コアに分散して処理を行います。

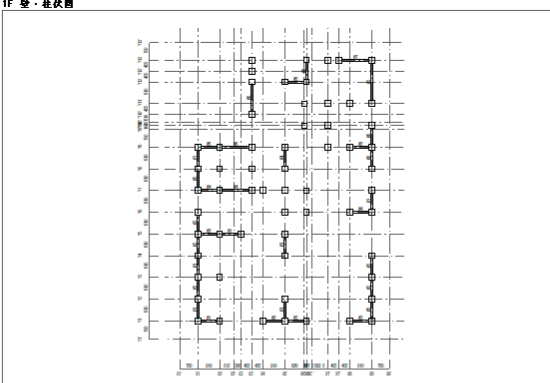
計算後や、印刷設定で出力項目変更後に出力が表示されるまでの処理が高速になります。

壁量計算、品確法出力

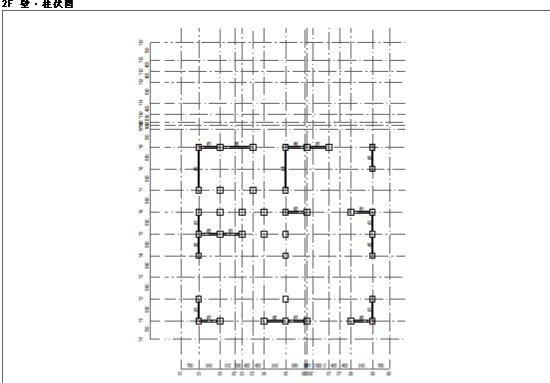
壁量計算書として、別途出力する機能を追加しました。

品確法計算書は、壁量計算書と同じ形式で出力され、A4縦とA3横のレイアウトを選択できます。

1F 壁・柱状図



2F 壁・柱状図



壁/柱状図要素名称	形状	数量	単位	材料	仕様	品名	数量	高寸の合計 (mm)	完成数量
壁	B1	-	本数(個)	1	-	-	-	-	-
	B2	-	本数(個)	1	-	-	-	-	-
	B3	-	本数(個)	1	-	-	-	-	-
	B4	-	本数(個)	1	-	-	-	-	-
	B5	-	本数(個)	1	-	-	-	-	-
	B6	-	本数(個)	1	-	-	-	-	-
	B7	-	本数(個)	1	-	-	-	-	-
柱状図要素	C1	-	本数(個)	1	-	-	-	-	-
	C2	-	本数(個)	1	-	-	-	-	-
	C3	-	本数(個)	1	-	-	-	-	-

壁/柱状図要素名称	形状	数量	単位	材料	仕様	品名	数量	高寸の合計 (mm)	完成数量
柱状図要素	T	-	個	1	-	-	-	-	-
	V	-	個	1	-	-	-	-	-
	F	-	個	1	-	-	-	-	-
	1	-	個	1	-	-	-	-	-
	7a	-	個	1	-	-	-	-	-
	1b	-	個	1	-	-	-	-	-
	2	-	個	1	-	-	-	-	-
	3	-	個	1	-	-	-	-	-
	4	-	個	1	-	-	-	-	-
	5	-	個	1	-	-	-	-	-
	6	-	個	1	-	-	-	-	-
	12	-	個	1	-	-	-	-	-

耐力を考慮した耐力壁及び耐力柱等の熱率計算表

壁種	仕様	2階標準	3階標準	4階標準	5階標準	6階標準	7階標準	8階標準	9階標準
壁	■ 耐力壁-F (耐力壁F大型)	0.900	240.0	0.600	284.4	0.406	275.0	0.475	-
	■ 耐力壁-F (耐力壁F大型)	0.900	240.0	0.600	284.4	0.406	275.0	0.475	-
柱	■ 耐力壁-F (耐力壁F大型)	0.900	240.0	0.600	284.4	1.266	275.0	1.310	-
	■ 耐力壁-F (耐力壁F大型)	0.900	240.0	0.600	284.4	0.406	275.0	0.475	-
柱	■ 耐力壁-F (耐力壁F大型)	0.900	240.0	0.600	284.4	0.406	275.0	0.475	-
	■ 耐力壁-F (耐力壁F大型)	0.900	240.0	0.600	284.4	0.406	275.0	0.475	-

<p>●性能表示検討項目</p> <p><input type="checkbox"/>構造-壁量、つり合い、壁仕様</p> <p><input type="checkbox"/>次梁-</p> <p><input type="checkbox"/>変形-</p> <p><input type="checkbox"/>継接-</p>	<p><input type="checkbox"/>塗膜-</p> <p><input type="checkbox"/>空板-</p> <p><input type="checkbox"/>先張-</p> <p><input type="checkbox"/>音-</p> <p><input type="checkbox"/>両断-</p>	<p>窓設計事務所</p>	<p>工事名称</p> <p style="text-align: center;">○〇新築工事</p> <p>図面名称</p> <p style="text-align: center;">壁量等確認図(壁仕様対照表)</p>	<p>日付</p> <p style="text-align: center;">図書</p> <p style="text-align: center;">05</p>
---	---	---------------	---	---

■製品案内Webページ

HOUSE-ST1の製品案内、および新機能の詳細はWebページをご覧ください。

HOUSE-ST1 製品紹介

<https://www.kozo.co.jp/program/kozo/house/house-st1/index.html>

HOUSE-ST1 Ver.9 新機能紹介

https://www.kozo.co.jp/program/kozo/house/house-st1/add-new-functions/sp_90.html

本件に関するお問合せ先

株式会社構造システム 営業本部 担当:伊原

E-mail:sales@kozo.co.jp TEL:03-6821-1311